

8410 ヘッドライトに照らされた・・・

ヘッドライトに照らされた闇の中に、細かい雨が降っている。

「あすは雪になるかもしれないって、ラジオが言ってたよ」

イエローキャブの運転手が前方を見たままつぶやく。

初雪が降ったデンバーで一泊したあと、デトロイトへ飛ぶつもりだったが、急遽、フライト便を変更してピッツバーグへやってきた。こうやって気軽にスケジュールを変更していく旅もまた面白いものだ。

中山俊明『アメリカがつぶやく』

[許容訳例]

In the dark, lit by the headlights, a drizzle was falling.

“The radio says it may snow tomorrow,” murmured the driver of the yellow cab, looking straight ahead.

I'd intended to fly to Detroit after a day's stay in Denver, where we had had the first snow of the year, but suddenly I changed my flight to come to Pittsburgh. I find it fun to alter my schedule at random while traveling.

[翻訳例]

Where the dark was lit up by the headlights, a fine rain was falling.

“The radio says it may snow tomorrow,” muttered the driver of the yellow cab, his eyes fixed on the road ahead.

After a night in Denver, where the year's first snow had fallen, I'd intended to fly to Detroit, but on the spur of the moment I'd changed my flight and come to Pittsburgh. To change one's schedule in this way, without thinking too much about it, is one of the pleasures of travel.

■ヘッドライトに照らされた闇の中に、細かい雨が降っている。(8410)

★「ヘッドライト」は普通、二つですから the headlights と複数です。なを、定冠詞は「筆者が乗っている」ということを知らせるためです。

★「・・・に照らされた」は lit up by...です。lit by...でもいいですが、これは、たとえば、This room is lit by electric light.とか The street is lit by gaslight.というように、by 以下が光源になっているという意味になります。lit up にすると「照らし出す」とか「浮かび上がらせる」という感じになるので、ここは lit up の方がいいかもしれません。

★「闇」は(the) dark です。darkness は「暗闇（であること）」です。

★「細かい雨」は a fine rain が日本語に対応します。fine は「(きめ) 細かい」の意味です。a fine powder; a fine sand; a fine dusk のように使います。もちろん a drizzle でもかまいませんが、これは単に「細かい雨」という意味以上に何か主観的なニュアンス（たとえば、「霧

雨」といったような)が入っているような気がします。

★「(細かい雨が)降っている」は、ここでは「降っていた」(was falling)としなければなりません。日本語では、過去の出来事をこのように現在時制で叙述することがありますが、英語では過去の出来事は過去時制です、「歴史的現在」(historical present)という使い方もありますが、実際問題として現代英語では使わないと思っていたほうがいいでしょう。

●文技巧 (照らされているのは「闇」か「細かい雨」か)

「ヘッドライトに照らされた闇の中に、細かい雨が降っている」は表層的には「ヘッドライトに照らされた闇」ですから「連体修飾節(ヘッドライトに照らされた)＋不定代名詞的体言(闇)」で、英語では「名詞(the dark)＋関係詞節(which was lit up by the headlights)で対応することになります。しかし、「闇がヘッドライトに照らされている」で見えるのは「細かい雨」です。このへんの状況をどのように処理したらよいか。まず、which was は省略可能なので、In the dark lit up by the headlights, a fine rain was falling.と書くことが出来ます。この場合は lit up されたのは the dark ですが、英語としては dark の後にコンマを打ちたくありません。すると In the dark, lit up by the headlights, a fine rain was falling.は分詞構文となっていて、lit up されるのは a fine rain になります。「闇の中に、ヘッドライトで照らされた細かい雨が降っていた」ということです。それを避けるには「闇の中に(in the dark)」を先行詞として In the dark, where it was lit up by the headlights, a fine rain was falling.とするか、あるいは Where the dark was lit up by the headlights, a fine rain was falling.とすると「闇の中にヘッドライトの光が入ったから、細かい雨が降っているのが見えた」となります。

■「あすは雪になるかもしれないって、ラジオが言ってたよ」(8410)

★「あすは雪になるかもしれない」ですが、「かもしれない」は五分五分の可能性です。その場合、英語では may を使います。したがって、訳としては It may snow tomorrow.がいいです。なお、It'll probably snow tomorrow.は「多分[十中八九]雪になるだろう」という意味になってしまいます。

★「・・・って、ラジオが言ってたよ」は“The radio said…”でもいいですが、天気予報の内容は今でも(そのときにも)変わらないということでしょうから“The radio says…”の方がいいでしょう。なお、話し言葉の中ですから said [says] that…と that を入れる必要はありません。

■イエローキャブの運転手が前方を見たままつぶやく。(8410)

★「イエローキャブの運転手」は the driver of the yellow-cab です。the driver in the yellow-cab は駄目です。これは「たまたまイエローキャブに乗り合わせている運転手」という意味になります。

★「前方を見たまま」は、「同時」なので、ちょっと長くなりますが(with) his eyes fixed on the road ahead がいいでしょう。あるいは、日本語では平叙的に述べているところを英語では裏返して without taking his eyes off the road という言い方も出来ます。なお、looking straight ahead (どういうわけか looking straight forward とは言いません)も可能ですが、

これは and looked straight ahead という「順次」の意味になりかねません。

★「つぶやく→つぶやいた」には murmured と muttered がありますが、murmur は、口の中でもごもご何か言うという感じです。mutter は「ぶつぶつ独り言をいう」という意味と、場合によっては「(誰に言うこともなく) 愚痴や不平をいう」といったニュアンスが入ってくる場合がありますが、いずれにしても、この場合は muttered の方がいいように思います。

■初雪が降ったデンバーで一泊したあと、デトロイトへ飛ぶつもりだったが、急遽、フライト便を変更してピッツバーグへやってきた。(8410)

★「初雪」は the first snow of the year が慣習的な決まり文句です。the first snow of this year とは言いません。

●「連体修飾節+特定体言」(初雪が降ったデンバー)

「初雪が降ったデンバー」は「連体修飾節(初雪が降った)+特定体言(デンバー)」ですから、英語では「特定名詞(Denver)+コンマ関係詞節(, where we had had the first snow of the year [the year's first snow])で処理することができます。where 以下は the year's first snow had fallen としてもかまいません。

★「(デンバーで) 一泊したあと」は after a day's stay (in Denver) でもいいですが、日本語に合わせて after a night [one night] stay (in Denver) がいいでしょう。また、節にして After I had stayed overnight [spent a[one] night] in Denver でもかまいません。

★「デトロイトへ飛ぶつもりだった」は I had intended to fly to Detroit です。

●文構造(初雪が降っ[た]デンバーで・・・した[あと]・・・だった[が]・・・)

「初雪が降っ[た]デンバーで一泊した[あと], デトロイトへ飛ぶつもりだった[が]・・・」には四つの動詞と三つの連結辞が使われていますが、文意の根幹は「・・・した[あと], ... つもりだった[が]・・・」です。したがって、この部分が日本文の順序になるようにすると、英語では After...in Denver, where..., I had intended...to Detroit, but...とすることになります。

★「急遽」は suddenly でもいいですが、これはあまりにも客観的で、本人の気持ちが一切入りませんから、日本語の「急遽」に含まれる「・・・するなんて全然思っていなかったが、衝動的に気が変わって予定を変更して急に」のニュアンスが出ません。こういう場合に英語でよく使うイディオムに on the spur of the moment (その場の弾みで・衝動的に) という表現があります。

★「フライト便を変更して」は I changed my flight to...です。和英辞典などには「変更する」に alter も挙げていますが、これは「何かをそのままにしておいて一部を変える」という時に使います。たとえば、ちょっと変な例ですが Our cat has been altered. というと「猫は猫でそのままでけど一部が変わった」、つまり、「猫を手術[去勢]した」といことで、Euphemism (婉曲語法) のいい例だと思います。Our cat has been changed. というと「よその猫と取り替えた」という意味になります。もっとも、change も alter と同じような使い方をすること

はあります。たとえば、I changed this sentence. といえば「文章に一部手を入れて変えた」という意味になります。つまり、changeの方が意味としては広いわけで、ここはchangeを使った方がいいです。

●「・・・して・・・した」(主動詞+句)

「フライト便を変更[して]ピッツバーグへやってきた」の[して]は「順次」ですからandで対応できますが、「主動詞(I changed my flight)+句(to come to Pittsburgh)でも処理できます。

■こうやって気軽にスケジュールを変更していく旅もまた面白いものだ。(8410)

★「こうやって」は「旅の途中にこうやって」を while traveling as I did とすると、did は change ではなく、すぐ前の travel となるので、ここでは as I did は使えません。「このように」と考えるなら in this way です。

★「気軽に」は、ちょっと長いですが、英語では一つの決まり文句として、一口で言って without thinking too much about it がよく使われます。なお、at random (・無作為に・思うがままに) も使えないこともないですが、これはいろいろと choice の対象がたくさんある場合に使う言葉です。たとえば、He hit out at random. といえば in any direction; without thinking about the direction という感じです。

★「スケジュールを変更して・・・」の「スケジュール」ですが、the schedule とすると、誰かがすでに決めていた予定を若干変更するという客観的な意味合いになってしまいます。自分の経験を述べるのであれば、自分自身の予定として my schedule とした方がいいです。一般論として述べるのであれば one's schedule とすると「誰でもいい自分のスケジュール」という感じになります。

★「変更していく(旅)」の「変更する」も change です。

●「連体修飾節+不定代名詞的体言」の処理と原文解釈(気軽にスケジュールを変更していく旅もまた面白いものだ)

「こうやって気軽にスケジュールを変更していく旅もまた面白いものだ」という文は、非常に日本語らしい文で、連体修飾節が二つ重ねてあります。

一つは「連体修飾節(こうやって気楽にスケジュールを変更していく)+不定代名詞的体言(旅)」ですが、この「連体修飾節+体言」は「名詞+関係詞節」で処理できません。というのは、「体言(旅)」が連体修飾節の一部ではない、言い換えると「{単位情報}に還元できない」からです。

連体修飾節というのは、日本人には都合のよい連結法なのですが、欧米の文章法に含まれている論理的単位情報連結を超越する場合があります。ですから、分類すればある程度の対応規則は見いだすことができるかもしれませんが、すべての事例を包括することは出来ないのではないかと思います。

たとえば、次の文には、構造的には二つ、処理の仕方としては三つのタイプの「連体修飾節+体言」が含まれています。

朝六時に起きた僕は歯を磨き、顔を洗い、そして、七時に姉さんが作ってくれた朝ご飯を食べました。台所には卵を焼いた匂いが立ちこめていました。朝ご飯を食べながら、僕は姉さんに昨日学校で起こったことを話しました。

「朝六時に起きた＋僕」は「僕は朝六時に起きた」と還元することが出来ます。「姉さんが作ってくれた＋朝ご飯」は「姉さんが朝ご飯を作ってくれた」であり、「昨日学校で起こった＋こと」は「昨日学校でことが起こった」です。このタイプの「連体修飾節＋体言」は、基本的には「名詞＋関係代名詞節」で処理出来ます。ただ、連体修飾節で修飾される体言が固有名詞とか人称代名詞のような「特定体言」の場合は、関係代名詞で修飾限定すると、「特定の人・もの・こと」が、二つ（以上）存在することになるという矛盾が生じます。そのような矛盾が生じないように、言い換えると、新しいカテゴリーを作らないように、「名詞・代名詞＋コンマ関係詞節」か「分詞構文・動名詞構文」(Upon waking up at six this morning, I...)/ Getting up at six in the morning, I...で処理するということです。

ところで、「卵を焼いた匂い」は、「連体修飾節（卵を焼いた）＋体言（匂い）」ですが、連体修飾節と体言で「{単位情報} に還元」することができません。したがって、このタイプは個々に処理しなければなりません。たとえば、

台所には卵を焼いた匂いが立ちこめていました。

↓

The smell of fried eggs filled the kitchen.

There was a smell of fried eggs in the kitchen.

部屋はアップルパイを焼くにおいが充満していた。

↓

The whole room was filled with the smell of apple pie baking.

つまり、このように分類される {単位情報} に還元できない「連体修飾節＋体言」は、「卵を焼いた場合に出る匂い」とか「アップルパイを焼く時に生じる＋におい」のように、「場合・時（＋動詞）」が端折られているのです。いわゆる「隠れ連体修飾節」の一種と分類することが出来るのではないかと思います。したがって、「こうやって気楽にスケジュールを変更していく旅もまたおもしろいものだ」は「こうやって気楽にスケジュールを変更していく（Ａと・Ａ場合には）旅もまたおもしろいものだ」と補って処理することになります。（Ａ場合には）と解すると関係副詞 where を使って where you can easily change your schedule like this とすることも出来ます。江川氏は関係副詞のところに He forgets nothing where a kindness is to be done.を例文として出していて、解説で、この where は in cases where で

while; whereas に容易に書き換えることが出来ると述べています。

二つ目は「・・・もまた面白いものだ」の文です。この文も「連体修飾節（・・・もまた面白い）＋不定代名詞的体言（もの）」ですが、これもちょっとやっかいです。「またおもしろいものだ」という口調をどう解釈するかという問題が含まれているからです。

日本文が「・・・もまたおもしろい」ではなく「(・・・もまた)・・・ものだ」という口調になっていることから、自分の経験の感想として述べているようでもあるし、自分の経験を通して一般論として述べているようでもあるのです。前者の解釈なら「経験・調査などの結果から知る・わかる」の find A (to be) B を使って、I find it (great) fun to change my schedule at random while traveling. というように処理することになります。後者の解釈なら、「もまた」を one of... で表して、To change one's schedule in this way, without thinking too much about it, is one of the pleasures of travel. とすることができます。これによって、経験を一般論化して「旅をするとういう面白みもある」という意味も出ますし、また「こういう旅の仕方も面白い」という意味にもなると思います。